

第2次中期経営計画（令和3年度～令和7年度）
— 令和3年度 進行管理報告書



令和3年6月3日
チェーンソー基本トレーニング組合内指導員養成研修

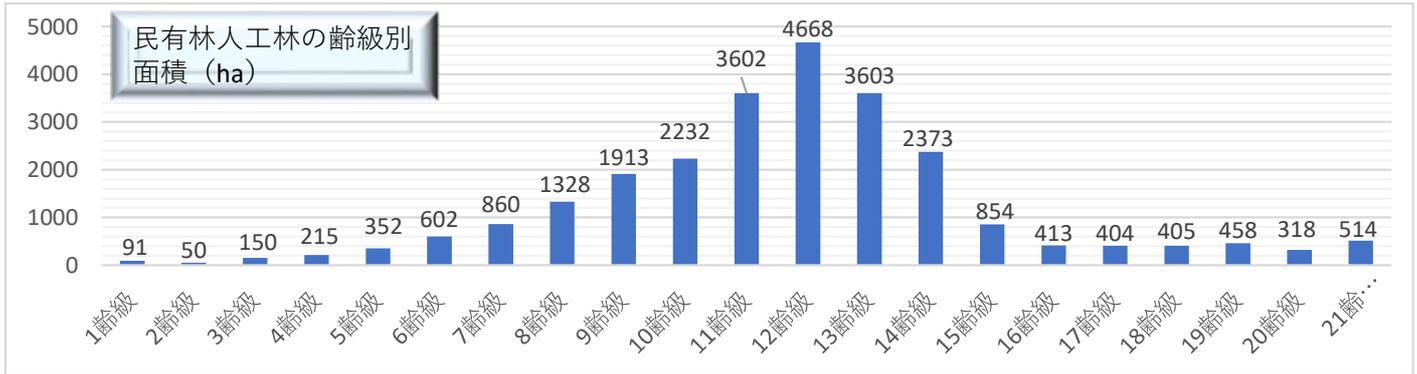


令和3年10月8日
人材育成プログラム 樹種勉強会

管内の概要

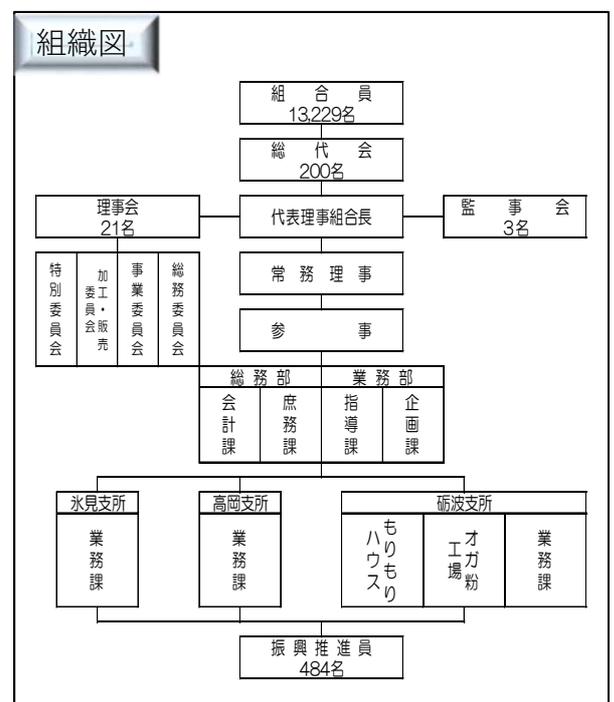
森林の概況

	総面積 (ha)	森林面積 (ha) (国有林含む)	林野率 (%)	うち民有林面積 (ha)	うち民有林人工林面積 (ha)
県全体	424,758	285,302	67	179,790	50,594
管内	147,928	83,328	56	74,054	24,381
管内/県全体	35%	29%		41%	48%



組合の概要

設立年月日	平成20年10月1日 砺波、利賀村、五箇山、高岡地区、氷見市の5組合が合併 組合の地区（高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市）	
出資金	324,019,500円 (出資口数 648,039口 1口 500円)	
事業量 (令和3年度)	事業総収益	1,886,984千円
	事業総費用	1,451,191千円
	事業管理費	346,210千円
	税引前当期利益	91,719千円
財務諸表 (令和3年度末)	流動資産合計	1,438,404千円
	固定資産計	334,536千円
	資産合計	1,772,940千円
	負債合計	397,698千円
	組合員資本合計	1,375,242千円
	負債・資本合計	1,772,940千円
従業員数	職員	36名 森林施業プランナー 18名
	専門職員	11名 再雇用2名 事務2名 技術7名
	常用人	45名 森林従業員40名 工場従業員5名
	臨時従業員	19名 事務14名 技術5名
	計	111名



組合の概要

令和3年度 主要事業の概要



間伐 20地区 231ha



更新伐 15地区 118ha



主伐 15ヶ所 21.7ha



森林経営計画認定1,207ha



植栽 19ヶ所 26.7ha



林業専用道3路線 2.3 km



森林作業道19路線43Km



竹林整備 51.17ha



特殊伐採等



合掌屋根葺替 9棟



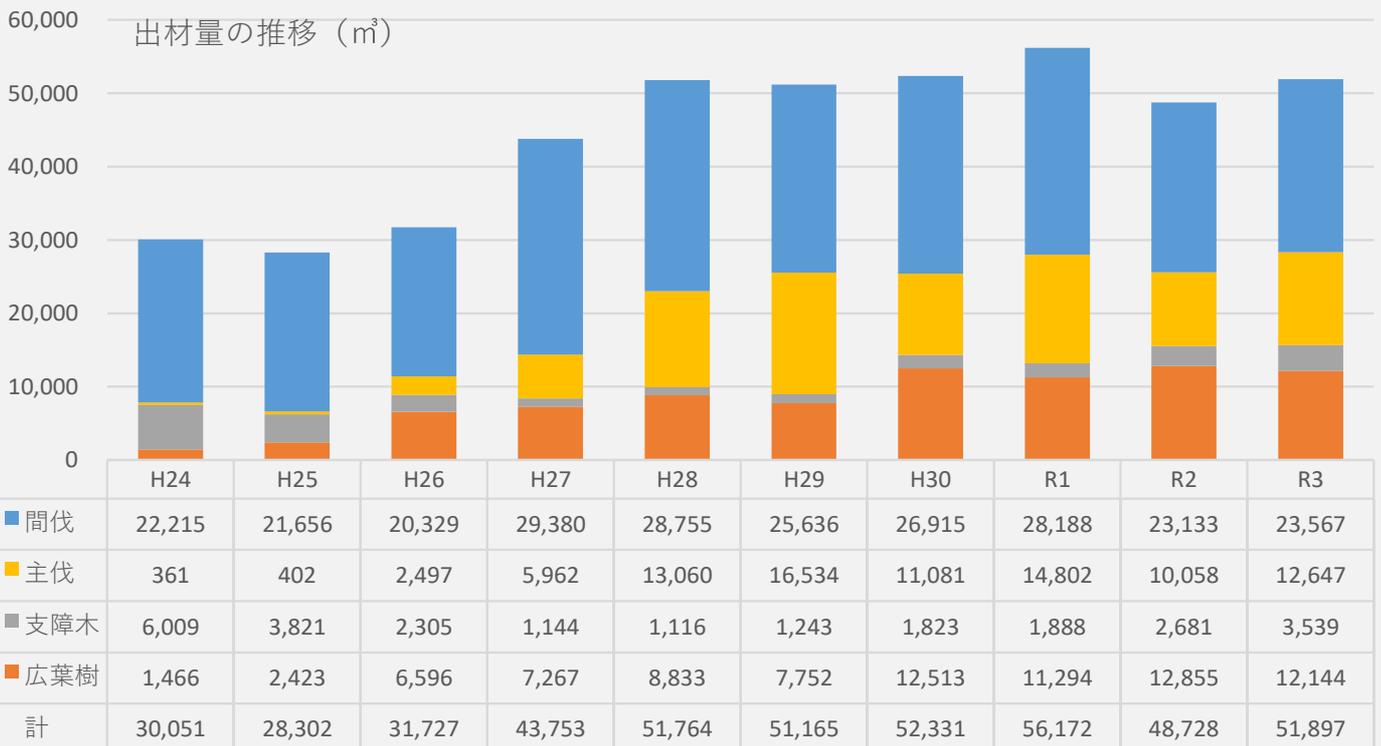
オガ粉製造 20,707m³



もりもりハウス37,173人

林産事業

出材量の推移 (m³)



第2次中期経営計画計画の概要

経営理念

富山県西部森林組合は
森林整備のための高度な技術集団として
豊かな森林の造成に努めることにより
森林所有者への利益還元を増大するとともに
森林の持つ公益的機能の維持及び
森林生産力の増進を図り
もって**地域社会の持続的発展**に寄与します。



経営方針

課題

- ・ 安定的な経営
- ・ 集約化合意形成の更なる効率化
- ・ 人材の確保・育成の強化、労働環境改善
- ・ もりもりハウスの安定経営
- ・ 所有者不明森林の増加・組合員の減少
- ・ 素材出荷数量の鈍化
- ・ 森林経営管理法の施行
- ・ 固定資産の計画的な利用及び処分

経営ビジョン

1. スマート林業による事業運営の改善を図る。
2. 計画的な森林整備と林産事業の重点化により持続的な森林経営を展開する。
3. 人材の確保・育成を強化するとともに労働環境の改善を図る。
4. 加工部門（オガ粉生産）の強化及びもりもりハウスの改善を図る。
5. 組織の体質強化を図る。
6. 各取り組みを進め、事業利益を改善するとともに、SDGsの目標達成に貢献する。

行動指針

チームワーク 現場重視 改善 チャレンジ

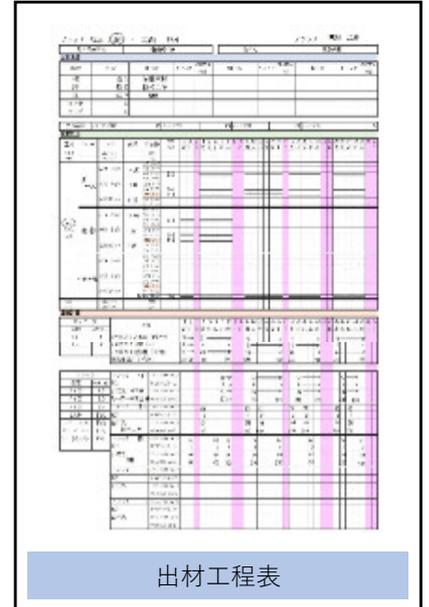
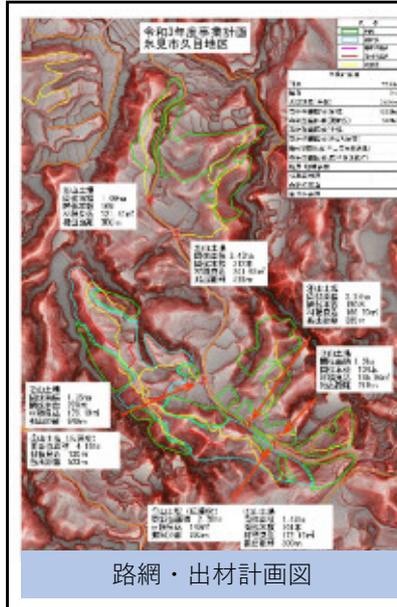
1. スマート林業による効率化と経営基盤の強化

《基本方針》 ICTを活用したスマート林業により、事業の効率化、事業分析、会計事務の効率化、期中での収支試算を実施し、収支改善を図る。

(1) 高精度な事前調査

● 航空レーザー測量による詳細な森林情報の把握

レーザー測量から、地形情報を取得し路網整備の設計に利用した。また、森林資源量情報の取得により、出材計画の現地調査を簡素化したうえで計画図及び工程表を作成した。それらの情報を現場従業員と共有することで、詳細な工程管理に役立てた。



出材工程表

(2) 施業集約の効率化・省力化

● 所有者情報整理等業務プロセスの自動化に向けた対策

入力作業のオートメーション化による業務の効率化を図るため、RPAシステムについて検討を行い、R4の導入に向けて体制を整えた。

このシステムでは所有者情報整理の自動化による効率化のほか、日報情報整理を行うことで勤怠管理・原価管理結果を即座に現場に反映させる仕様とした。

● 工程管理、出材予測、配車計画等の管理の自動化に向けた対策

各作業工程の作業ログ（GPS情報）を取得し、それらの情報を正確で円滑な工程管理等に活用するための仕組みを立案し公募事業に応募したが採択に至らなかった。R4は内容変更を含め引き続き検討することとした。

トピックス 通信手段の確保のための実証実験

携帯電話等の通信手段の脆弱な林業現場においてLPWA通信による実証実験を行った。実験では携帯電話の受信が可能な場所に設置した簡易基地局と、携帯電話の受信ができない林内に持ち込んだGPS受信機との通信状況について検証した。

(実証結果)

- ・ 飛距離の検証では最大約1,000mの範囲で通信が可能な状態であった。
- ・ 林内の谷部などの電波の回り込み検証では、地形の状況にかかわらず概ね良好な通信状況であった。
- ・ 課題としては、基地局には携帯電話の電波が必要であるため、設置ができない地域が管内には多数あることや、工期の短い保育作業などには不向きな事などがあげられる。

スマート林業の実現に向けては、通信手段の確保が前提となるため、今後も関係機関等と連携を図り検討を行う。



2.集約化・林産業務の効率化

《基本方針》 集約化10ヵ年計画を策定し、更なる大団地化を進める。
 施業の2年前から事前調査を進め、効率的な合意形成と効果的な森林整備を実施する。
 徹底した現場管理による生産性、収益性、安全性の向上と労働環境の改善を実現する。

(1) 集約化団地の大規模化

● 1団地当たりの施業面積を増大

間伐・更新伐における1団地当たりの集約化面積の増大に着手した。

1団地当たりの平均面積を11ha(R2)から17.5ha(R3)とした。また20ha以上の団地を4団地(R2)から8団地(R3)とした。

区分	(単位)	R7目標値	R3目標値	R3実績
団地数	(団地)	7	23	20
間伐	(ha)	303	276	231
更新伐	(ha)	115	154	118
計	(ha)	418	430	349
1団地当たり面積	(ha/団地)	59.7	18.7	17.5

※ 目標値の変更

中期経営計画の大団地化計画は、間伐・更新伐のほか竹林整備・広葉樹整備・主伐を含めて、R7年度森林整備面積を7団地×100ha/団地としていたが、竹林整備等について予算が流動的で計画通りの施工が困難であると判断したため、間伐・更新伐のみの数量を目標値とすることとした。なお集約化計画自体は、今後も地域のために必要な様々な施業を複合的に行っていく方針に変わりはないものとする。

(2) 合意形成の効率化

● 事前調査プランナーが2年後の森林整備地域の名寄せ作業を開始

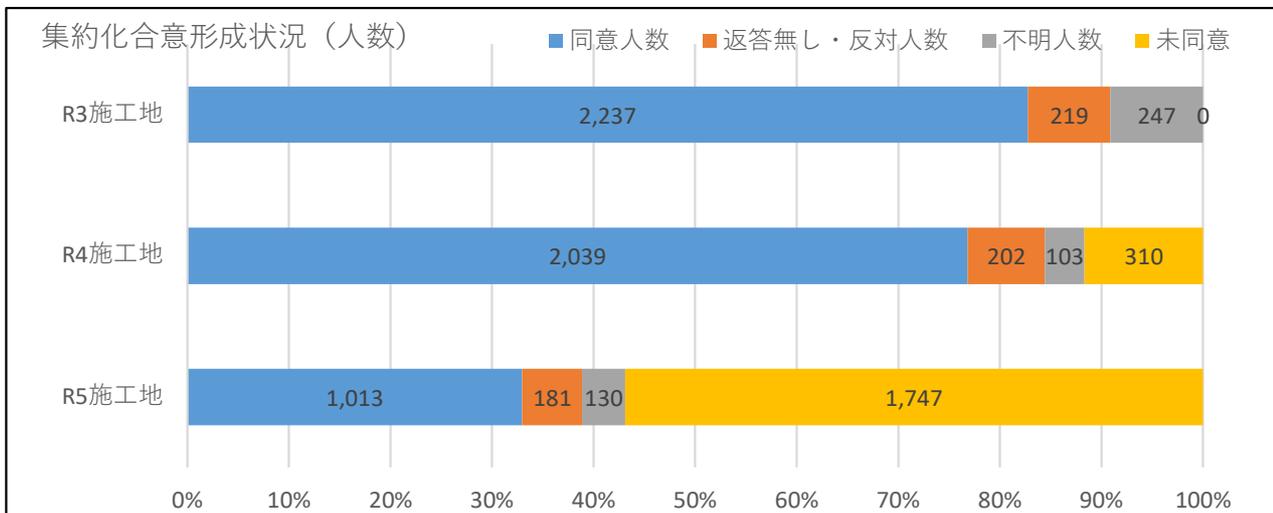
R5計画地 100,000筆の所有者調査を実施し合意形成にも着手した。

● 合意形成プランナーが1年後の森林整備地域の合意形成作業を開始

R4計画地の77%の合意形成を完了した。



地権者説明会を開催



※コロナ禍の中、感染防止対策を行いながら、合意形成業務に当たった。
 ※R3はR3～5事業の調査から工事までを行う必要があったため一時的に業務量が増加した。今後は計画的な事前調査～施工の流れができるため、業務量の軽減、合意形成の省力化が見込まれる。

(3) 大団地化による収益性・生産性の向上

● 大団地化により直送での輸送体制を構築

下表のとおり、団地内に設置した中間土場から大型トラックによる直送を増加させ、各支所ストックポイントを経由した2次運搬を減少させることで、ボトルネックとなっていた原木輸送体制の改善に着手した。

年度	直送		2次運搬		計
R2	32,668m ³	67%	16,060m ³	33%	48,728m ³
R3	39,127m ³	75%	12,770m ³	25%	51,897m ³



中間土場での積込作業

● 集約化団地の所有者への返金額を増大

大団地化による経費削減や木材価格高騰の効果により、間伐・更新伐の所有者への返金額をR2：6,365千円からR3:25,181千円に増大した。

トピックス

高岡支所串田団地において、現場事務所を設置し現場管理プランナーを常駐させ、施工管理及び安全管理体制の構築に向けた実証を行った。現場管理プランナー常駐化の利点は以下があげられる。

- ・ 工程管理の徹底や複数班による協力施工を行うことで、当初計画より1か月間の工期短縮を実現した。
- ・ 出荷管理により、AB材率を見積時40%から57%に向上させた。
- ・ 森林所有者の要望にも早期の対応ができた。



現場事務所の設置



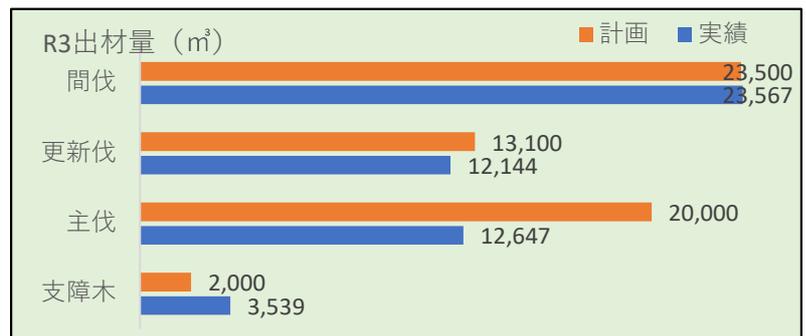
ミーティングの様子

(4) 素材生産量の拡大

● 出材量の増加

令和3年度の出材実績は **51,897m³** で計画の58,600m³には6,703m³ (88%) 不足した。

工種毎の内訳では主伐の出材量が計画に達しておらず、人員不足の解消及び主伐事業の取組みを強化する必要がある。

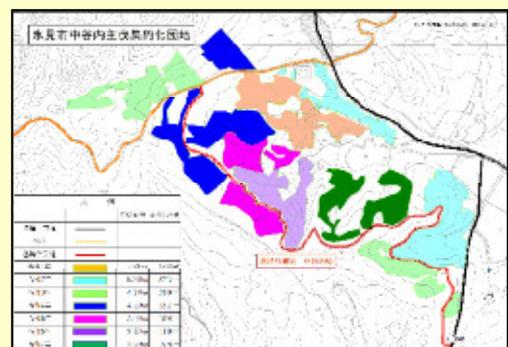


トピックス

集約化主伐の取組み

氷見支所中谷内地区において、主伐の集約化団地を形成した。

伐採面積24.6ha、計画出材数量15,877m³の大規模主伐団地であり、これらを7ヵ年で計画的に伐採し、木材の積極的な有効活用を図りつつ、伐採跡地には優良無花粉スギ「立山森の輝き」の植栽を行うことで、伐って、使って、植えて、育てる循環型林業の構築に取り組んでいる。



3.人材の確保・育成

《基本方針》 入口戦略の多様化・強化、計画的な人材育成、組合内研修環境の整備を実施する。
安全教育の徹底、働きやすい環境を整備する。

(1) 入口戦略・人材育成の強化

● 入口戦略として官民求人業者を活用

インターンシップに全国の各大学等から20名が就業体験に参加した。

また、地元高校生の林業体験会においては積極的に技術指導の役割を担った。

採用者数は 職員2名 森林従業員等4名となった。

民間の事業体においては、森林整備業者48社、建設業者90社、測量設計業者8社のほか、新たに木材輸送業者3社の登録を受け連携を強化した。



インターンシップ 伐採体験



合掌屋根葺き替え体験



高校生の林業体験

● 人材育成プログラムの実施

資格取得研修 26項目 48日間 延べ 91人参加 (資格取得者延べ85人)

社外研修 14項目 116日間 延べ 35人参加

社内研修 52項目 81日間 延べ994人参加

以上のプログラムを実践し、森林組合の従業員として必要な知識を習得した。研修内容は評価や効果にばらつきが見受けられたため 常に検証、改善を行う。特に外部講師による研修は好評であったため、今後も関係機関との連携、調整を進める。



新人研修会



枯れない植え方勉強会



竹の勉強会



トラックメンテナンス研修



合掌屋根用茅刈研修



台付ワイ・ロープワーク研修会

(2) 安全対策・労働環境の改善

● 安全・品質管理の徹底 及び 安全装備品の充実

安全教育や安全パトロールについて支所間交流や外部講師の招聘などにより対策を強化した。安全装備品を従業員に支給するとともに事業者の装備品に対して費用の一部を支援した。これらの対策等により、休業4日以上 の 労災は減少した。

- ・ 事故件数（外注した事業者の件数含む）
休業4日以上 の 労災2件、4日未満の労災19件（内 蜂、マダニ被害13件）、物損9件

トピックス 安全、品質に関するコンテスト、競技会の開催

各種コンテスト、審査会を行い、優秀者に表彰・副賞を進呈した。



トラックドライバコンテスト



チェーンソー基本
トレーニング競技会



安全作業審査（安全パト
ロール時に評価）



路網コンテスト

● 事業利益の結果を待遇に反映

決算の結果から全従業員に年度末手当を支給した。

● 働きやすい環境の整備

- ・ 「Good!! Work & Life とやま」 に登録
- ・ イクボス宣言
- ・ 元気とやま！子育て応援企業に登録
- ・ 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定
- ・ くるみん認定にむけた行動計画を策定登録等のための組合規程の改定を行い男性職員2名が育児休暇を取得。

育児休暇中のイクメンパパ



4. 加工部門（オガ粉生産）の強化 もりもりハウスの収支改善

《基本方針》 オガ粉の安定的な受注の確保 及び もりもりハウスの収支改善を目指す。

(1) オガ粉施設の安定的な受注の確保

● 安定供給による顧客との信頼関係の構築

製品の納期厳守、品質確保により顧客との信頼関係の構築に努め、次の複数年契約を結んだ。

- ・ 売買基本契約 1社
- ・ 取引量の覚書 2社

原木の安定的な確保のため、組合の出材計画の精査を行うと共に、林産業者と次の取引協定を結んだ。

- ・ 木材取引協定 2社

(2) もりもりハウスの販売強化

● 販売強化策の実施

- ・ POSレジ入替による売れ筋商品の把握
- ・ 看板、のぼり旗による集客の強化



看板・のぼり旗の設置

5.組織の体質強化

《基本方針》 固定資産の計画的な導入及び処分を進め、組織の資本効率を改善する。組合員に信頼され、地域に貢献する適正な運営、公平で透明な組織づくりを行う。

(1) 固定資産の新規導入・処分

● 事業計画に即した機械・設備の導入

中期計画のとおり3台の高性能林業機械を発注し、グラップルソー・フェラバンチャを導入した。グラップル付トラックはR4に繰越納入とした。その他の設備は投資計画どおり納入を進めた。



グラップルソー



フェラバンチャ



ドローン

(2) 組合員、地域から信頼される組織体制づくり

● 地域貢献のための仕組みづくり

組合の従業員が消防団活動に参加しやすい体制とするため、就業規則の一部改正（消防団活動に出勤した場合の特別有給休暇に関する取り決め）を行った。

消防署幹部の方との情報交換会を行い、山間地における火災や自然災害、事故があった場合の迅速な対応について協議を行った。今後も災害時を想定したレスキュー訓練など連携を図ることとした。



地域の消防団活動で活躍する職員

トピックス 消防署職員がチェーンソー基本トレーニングに参加

消防署職員のチェーンソー技術向上のため、組合のチェーンソー基本トレーニングに参加する機会をつくり共に技術研鑽に励んだ。



消防署員のトレーニングの様子



消防署員のトレーニングの様子

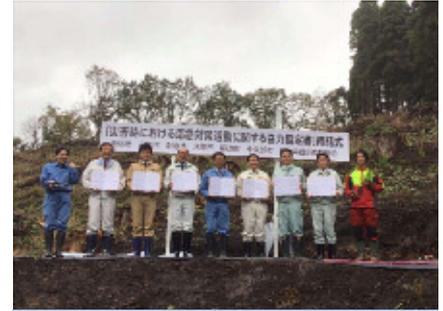
● 災害時応援の体制強化

自然災害等、不測の事態発生時に行政などに協力できる体制を構築するため、関係6市と災害協定を締結した。

災害協定式は令和3年11月9日に氷見市中谷内の森林整備現場において開催した。関係6市の市長をはじめ約50名の出席のもとチェーンソーや高性能林業機械による伐採作業やドローンの実演のあと、記念撮影を行い、迅速な対応を誓った。

協定後の状況

- ・災害対策本部設置・・・1回〔大雪警戒のため設置〕
- ・携帯電話保持命令・・・3回〔警戒のための事前の指示〕
- ・応援要請・・・1件〔降雪による支障木伐採要請〕



災害時応援協定締結式

● 内部監査の実施

令和3年度施行の内部監査規程により、3名の監査担当者（森林組合監査士）が10月27日、28日監査を実施した。

● 新型コロナウイルスへの対応

テレワーク、web会議の実施、玄関を施錠し内線電話での来客対応、必要に応じフェイスシールドの着用、換気対策を徹底し、感染防止に努めた。



緊急伐採作業中

6.SDGsの取組み

《基本方針》SDGsの取組みを宣言し、各事業の取組みを進める。



● 関係機関に取組みを宣言

- ・富山県に対し富山県西部森林組合がSDGsに取組むことを宣言し、令和3年度の実施状況を報告した。
- ・南砺市、高岡市と共にSDGsの達成につながる取組を実施することを宣言した。
- ・森林組合が行うSDGsの対策と関係市の総合計画及びSDGsについての関連を確認したうえで各取り組みを実施した。

取組みの実施状況

No.	取組目標及び主な取組み	SDGsゴール
1	<p>【目標】 持続可能な森林経営を推進するため循環型林業を展開します</p> <p>【実施状況】 ・森林の持続可能な利用を確保するため、間伐及び更新伐を349ha実施しました。併せて林業専用道2,343m、森林作業道43,345m開設し、森林整備及び路網整備を推進しました。 ・次世代に豊かな森林資源を引き継ぐため、伐採跡地への植栽を26.7ha、植栽後の初期保育(雪起しや下刈)を296ha実施しました。</p>	
2	<p>【目標】 木材の効率的な生産・流通及び加工を推進する</p> <p>【実施状況】 ・木材資源の効率的な利用を進めるため、主伐を21.71ha、12,647m³の素材を生産しました。 ・環境にやさしい木質バイオマス発電へ未利用材を15,554m³供給しました。 ・食料品の持続可能な生産に貢献するため、管内の広葉樹資源(ナラ類)を7,247m³出材し、キノコ栽培用オガ粉を20,707m³生産しました。</p>	
3	<p>【目標】 人材の育成及び働きやすい環境づくりに努める</p> <p>【実施状況】 ・全ての従業員及び協力業者に質の高い教育を進めるため、社内研修52種類を実施し計81日、社外研修14種類を実施し計116日実施しました。 ・男女共に能力強化を促進するため、ドローンを導入し、事業の効率化・省力化に取り組みました。</p>	

主な数値目標と実績

経営目標	(単位)	R7 計画値	R3 計画値	R3 実績	備考
売上高	(百万円)	2,073	1,911	1,886	—
税引前当期利益	(百万円)	49	24	91	—
自己資本対経常利益率	(%)	3.3	1.8	6.6	利益/自己資本で高いほど良い〔目標10%〕
人件費率	(%)	71.0	74.4	56.0	収益性の指標で低い方が良い〔目標60%〕
固定比率	(%)	22.3	23.8	24.0	安全性の指標で低いほど良い〔目標100%以下〕
事業管理費率	(%)	89.3	94.4	79.0	収益性の指標で低い方が良い〔目標80%〕
効率性	(万円)	1,132	1,096	1,245	—

事業目標	(単位)	R7 計画値	R3 計画値	R3 実績
間伐面積	(ha)	303	276	231
更新伐面積	(ha)	115	154	118
主伐面積	(ha)	35	25	21.7
出材量	(m ³)	70,200	58,600	51,897
加工部門売上	(千円)	160,823	154,383	147,580
販売部門売上	(千円)	706,630	585,726	601,967
森林整備事業売上	(千円)	582,267	539,294	381,428
利用事業売上	(千円)	516,732	527,880	653,026

第2次中期経営計画における課題、R4の取組み

区分	課題	R4の取組
1.スマート林業による効率化と経営基盤の強化		
(1) 通信連絡網の構築	大容量、高速通信は困難	低容量通信での緊急連絡網の確保
(2) ICTによる一貫システムの構築	システムの連携及び開発	予算化を目指し公募事業に応募
2.集約化・林産業務の効率化		
(1) 集約化団地の大規模化に向けた取組み	大団地化目標の計画達成	スケールメリット効果の創出
(2) 出材量の計画達成に向けた取組み	無駄のない作業の実行	現場管理プランナーによる徹底した管理
3.人材の確保・育成		
(1) 森林従業員の確保	森林従業員の不足	求人对策の徹底、建設業者等の林業参入への働きかけ
(2) 労働環境の改善	0災の職場づくり、働き方改革の推進	教育の徹底及び新たな安全対策の検討
4.加工部門（オガ粉生産）の強化・もりもりハウスの収支改善		
(1) 安定的な経営	納期厳守、品質向上	必要な設備投資の実行
5.組織の体質強化		
(1) 固定資産の導入、処分	計画の実行、予算の確保	早期の要望活動などの予算確保対策の実行
(2) 地域貢献の実行	地域の要望の確認	協定の実行及び新たな連携の検討
6.SDGsの取組み		
(1) 取組の評価及び分析	宣言した取り組みの実行	取組の評価と目標達成への貢献の実行